

公 民

(倫理)

発行者の番号略	教科書の記号番	判 型	総ページ数	検定済年
35 清水	倫理308	A5	230	平成28年
81 山川	倫理309	A5	218	
183 第一	倫理310	A5	230	
2 東書	倫理311	A5	238	平成29年
7 実教	倫理312	A5	222	
35 清水	倫理313	B5	214	
104 数研	倫理314	A5	230	

※総ページ数は、目録に記載されている数

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

倫理		冊数	7冊
発行者の略称・教科書の番号	清水308 山川309 第一310 東書311 実教312 清水313 数研314		

2 学習指導要領における教科・科目の目標等

【公民の目標】

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

【倫理の目標】

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

【倫理の内容及び内容の取扱い】

「内容」の抜粋	「内容の取扱い」の抜粋
(1) 現代に生きる自己の課題 (2) 人間としての在り方生き方 ア 人間としての自覚 イ 国際社会に生きる日本人としての自覚 (3) 現代と倫理 ア 現代に生きる人間の倫理 イ 現代の諸課題と倫理	(2) ア 内容の(1)については、この科目の導入として位置付け、生徒自身の課題を他者、集団や社会、生命や自然などのかかわりを視点として考えさせ(略)ること。 イ 内容の(2)については、次の事項に留意すること。 (ア) アについては、(略)先哲の思想、芸術家とその作品を、倫理的な観点を明確にして取り上げるなど工夫すること。 (イ) イについては、古来の日本人の考え方や代表的な日本の先哲の思想を手掛かりにして、自己の課題として学習させること。 ウ 内容の(3)については、次の事項に留意すること。 (ア) アについては、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、自己の課題として考えを深めていく主体的な学習への意欲を喚起すること。 (イ) イについては、アの学習を基礎として、学校や生徒の実態等に応じて課題を選択し、主体的に探究する学習を行うよう工夫すること。その際、イに示された倫理的課題が相互に関連していることを踏まえて、学習が効果的に展開するよう留意するとともに、論述したり討論したりするなどの活動を通して、自己の確立を促すよう留意すること。

3 教科書の調査研究

(1) 内容

ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査項目	対象の根拠（目標等との関連）	数値データの単位
a 「現代に生きる自己の課題」のページ数及び全体に占める割合	内容の取扱い(2)ア	ページ、%
b 「人間としての在り方生き方」のうち「人間としての自覚」、「国際社会に生きる日本人としての自覚」の各中項目それぞれのページ数及び全体に占める割合	内容の取扱い(2)イ	ページ、%
c 「現代と倫理」のうち「現代に生きる人間の倫理」、「現代の諸課題と倫理」の各中項目それぞれのページ数及び全体に占める割合	内容の取扱い(2)ウ	ページ、%
d 本文・脚注で取り上げられた先哲の人数	内容の取扱い(1)ア、イ	人
e 本文で引用・言及されている原典資料の総数	内容の取扱い(1)ア、イ	個
f 「現代と倫理」のうち「現代の諸課題と倫理」で取り上げられているテーマ数	内容の取扱い(2)ウ(イ)	個

イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

① 教科書の特徴をより明確にするため、具体的に調査研究する事項

<上記調査項目関連>

- d 本文・脚注で取り上げられた先哲の人名
- e 本文で引用・言及されている原典資料名
- f 「現代と倫理」のうち「現代の諸課題と倫理」で取り上げられているテーマ名

<その他>

- * 我が国の領域をめぐる問題の扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）
- * 国旗・国歌の扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）
- * 北朝鮮による拉致問題の扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）
- * 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い（調査の結果、記載のないことを確認した。）
- * 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い
- * オリンピック、パラリンピックの扱い

② 具体的に調査研究する事項を設定した理由等

- ・ 学習指導要領に定められた「内容」及び「内容の取扱い」において、「先哲の基本的な考え方を取り上げるに当たっては、内容と関連が深く生徒の発達や学習段階に適した代表的な先哲の言説等を精選すること。また、生徒自らが人生観、世界観を確立するための手掛かりを得させるような工夫を行うこと。」と示されているため、d、e及びfについて調査する。
- * 我が国の領域をめぐる問題及び国旗・国歌については、学習指導要領総則に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- * 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会教育目標の基本方針1に基づき、人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- * 東京都では、自然災害における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害における関係機関の役割等について考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱いについて調査する。

- * 学習指導要領に基づき、環境に係る諸問題を考察させることを通して、これらの問題を正しく理解できるようにするため、一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱いについて調査する。
- * 東京都教育委員会教育目標の基本方針２・３に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。

(2) 構成上の工夫（調査結果は「別紙3」）

- ① コラム・資料・トピックスの扱い方
- ② 視覚的資料（写真、図・イラスト、グラフ、表など）
- ③ ゴシック等の用語
- ④ 編集上の工夫・その他

「別紙1」 【(1) 内容 ア 調査研究の総括表】 (倫理)

調査項目			a		b				c				d	e	f	
			現代に生きる自己の課題割合		国際社会に生きる日本人としての自覚		現代に生きる人間の倫理		現代の諸課題と倫理		人数・脚注で取り上げられた先哲	本文で引用・言及されている原典	「現代と倫理」で取り上げられた「現代の諸課題と倫理」のページ数			
発行者	教科書番号	教科書名	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	ページ	%	人	個	個 (全体のページ数)	
清水	308	高等学校 新倫理 新訂版	16	7.0	56	24.3	52	22.6	64	27.8	27	11.7	294	153	28	230
山川	309	現代の倫理 改訂版	20	9.2	46	21.1	46	21.1	60	27.5	27	12.4	307	156	31	218
第一	310	高等学校 改訂版 倫理	13	5.7	53	23.0	52	22.6	66	28.7	29	12.6	301	129	39	230
東書	311	倫理	16	6.7	52	21.8	54	22.7	62	26.1	30	12.6	281	116	36	238
実教	312	高校倫理 新訂版	14	6.3	54	24.3	48	21.6	56	25.2	22	9.9	319	94	29	222
清水	313	高等学校 現代倫理 新訂版	13	6.1	48	22.4	44	20.6	57	26.6	33	15.4	268	107	39	214
数研	314	改訂版 倫理	15	6.5	49	21.3	53	23.0	63	27.4	31	13.5	303	132	29	230
平均値			15.3	6.8	51.1	22.6	49.9	22.1	61.1	27.1	28.4	12.6	296.1	126.7	33.0	

- ・全体のページ数は、見返しと裏見返し等を含めている。
- ・a, b及びcは、該当項目のページ数と全体のページ数に対する割合を小数第2位で四捨五入した値である。
- ・d, e及びfは、該当する項目について、その人数又は個数を数えた。

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 清水308】(倫理)

d 本文・脚注で取り上げられた先哲の人名									e 本文で引用・言及されている原典資料名	f 「現代と倫理」のうち「現代の諸課題と倫理」で取り上げられているテーマ名
ベルクソン	カッシーラー	ホイジンガ	ドストエフスキー	ルソー	G.H. ミード	クーリー	ピアジェ	レヴィン	罪と罰、カラマーゾフの兄弟、地下室の手記、夜と霧	生命倫理の問題
ユング	クレッチェマー	シュブランガー	アイゼンク	ミシェル	マズロー	フロイト	アードラー	エリクソン	イリアス、オデュッセイア、神統記、ソクラテスの弁明	生命科学の進歩
アリエス	オルポート	小此木啓吾	フランクル	ホメロス	ヘシオドス	ソフォクレス	タレス	ピュタゴラス	クリトン、饗宴、国家、形而上学、ニコマコス倫理学	生殖補助医療とその倫理的問題
ヘラクレイトス	パルメニデス	ゼノン(エレア学派)	アナクシマンドロス	アナクシメネス	エンペドクレス	デモクリトス	プロタゴラス	ゴルギアス	政治学、自省録、旧約聖書、新約聖書、告白、神の国、神学大全	生命研究にともなう問題
ソクラテス	プラトン	アリストテレス	ゼノン(ストア学派)	キケロ	セネカ	エピクテトス	マルクス=アウレリウス	ピュロン	クルアーン、治癒の書、医学典範、ヴェーダ、ウパニシャッド	死を問いなおす動き
エピクロス	プロティノス	モーセ	エレミヤ	イエス	ヨハネ	ペテロ	パウロ	アウグスティヌス	般若経、中論、大般涅槃経、論語、孟子、四書・五経、伝習録	生と治療を問いなおす
トマス=アキナス	ムハンマド	アヴィセンナ	アヴェロエス	ヴァルダマーナ	ゴッタマ=レンツゲルタ	竜樹	無著	世親	老子、荘子、判断力批判、礼記、神曲、人間の尊厳についての演説、君主論	生命と身体をどうとらえるか
孔子	墨子	孟子	董仲舒	荀子	韓非子	朱熹(朱子)	王陽明	老子	95カ条の論題、キリスト者の自由、キリスト教綱要	環境という問題
荘子	ピカソ	柳宗悦	世阿弥	唐木順三	M. ウェーバー	パターフィールド	クーン	コント	エッセー、パンセ、プリンキピア、方法序説、人間知性論、エチカ、モノドロジー	環境思想の展開
ダーウィン	スペンサー	ダンテ	ベトラルカ	ポツカッチョ	ポツティチエツリ	レオナルド=ダ=ヴィンチ	ミケランジェロ	ラッファエッロ	リヴァイアサン、百科全書、人間不平等起源論、社会契約論、実践理性批判	問題の現状と環境倫理の主張
フィッチェ	ビコ=デッラ=ミランダ	マキャベッリ	エラスムス	ルター	トマス=モア	カルヴァン	イグナチウス=デロヨラ	モンテーニュ	純粋理性批判、道徳形而上学原論、歴史哲学講義、法の哲学、功利主義	将来世代への配慮
パスカル	ブトレマイオス	コペルニクス	ケプラー	ガリレイ	ニュートン	ベーコン	デカルト	ロック	プラグマティズム、共産党宣言、資本論、死に至る病	環境と自然を考えなおす
パークリ	ヒューム	スピノザ	ライブニッツ	グロティウス	ホッブズ	モンテスキュー	ヴォルテール	ディドロ	日記、カへの意思、実存主義はヒューマニズムである、第二の性	家族の形態と機能の変化
ダランベール	カント	フィヒテ	シェリング	ヘーゲル	アダム=スミス	ベンサム	J.S. ミル	パース	正義論、全体性と無限、創造的進化、道徳と宗教の二源泉、啓蒙の弁証法	少子高齢社会と家族
ジェームズ	デュエイ	マルクス	オーウェン	サン=シモン	フーリエ	エンゲルス	ベルンシュタイン	ウェブ夫妻	論理哲学論考、哲学探究、風土、古事記、日本書紀	これからの家族と社会
バーナード=ショウ	キルケゴール	アブラハム	ニーチェ	ヤスパース	ハイデガー	フッサール	サルトル	メルロ=ポンティ	万葉集、三経義疏、法華経、往生要集、選択本願念仏集、歎異抄	日常生活と地域
ボーヴォワール	H. アーレント	ハーバーマス	ロールズ	マザー=テレサ	レヴィナス	シュヴァイツァー	ガンディー	レヴィ=ストロース	正法眼蔵、立正安国論、西洋紀聞、翁問答、聖教要録、葉隠、語孟字義、童子問	地域社会の変容
ソシュール	ラカン	フーコー	ドゥルーズ	ガタリ	デリダ	フロム	ホルクハイマー	アドルノ	弁道、政談、経済録、源氏物語、千載和歌集、新古今和歌集、曠野、万葉代匠記	新たなふるさとの創出
ウイトゲンシュタイン	ポパー	クワイン	クーン	和辻哲郎	聖徳太子	聖武天皇	光明皇后	鑑真	国意考、古事記伝、町人叢、都鄙問答、自然真宮道、出定後語、翁の文	社会生活と情報
行基	最澄	空海	源信	空也	法然	善導	一遍	親鸞	夢の代、曆象新書、ターヘル=アナトミア、解体新書、省雲録、大日本史	情報社会の背景
唯円	道元	栄西	明全	日蓮	叡尊	明恵	藤原惺窩	林羅山	新論、妻妾論、福翁自伝、学問のすゝめ、民約訳解、三酔人経倫問答	情報社会論の登場
山崎闇斎	新井白石	雨森芳州	中江藤樹	貝原益軒	熊沢蕃山	山鹿素行	山本常朝	伊藤仁斎	戦争廃止論、武士道と基督教、国民之友、日本人、日本、日本道徳論	情報社会の問題点
荻生徂徠	太宰春台	藤原俊成	千利休	藤原定家	西行	松尾芭蕉	契沖	荷田春満	教育と宗教の衝突、日本改造法案大綱、大日本帝国憲法、教育勅語	情報社会の現状と課題
賀茂真淵	本居宣長	平田篤胤	西川如見	井原西鶴	近松門左衛門	石田梅岩	手島堵庵	鈴木正三	社会主義神髄、平民新聞、貧乏物語、日本イデオロギー論、内部生命論	文化と宗教の多様性
安藤昌益	富永仲基	山片蟠桃	二宮尊徳	志筑忠雄	前野良沢	杉田玄白	高野長英	渡辺華山	若菜集、みだれ髪、私の個人主義、舞姫、青鞞、水平社宣言	多文化・宗教状況の倫理
横井小楠	佐久間象山	吉田松陰	藤田東湖	会沢安	西周	森有礼	中村正直	加藤弘之	善の研究、人間の学としての倫理学、青年と学問、おもしろ、農民芸術概論綱要	人類の福祉
西村茂樹	津田真道	福沢諭吉	中江兆民	岸田俊子	栗山(福田)英子	植木枝盛	新島襄	植村正久	墮落論、日本政治思想史研究、日本国憲法、自然学、無常といふ事、沈黙の春	自立を支援する国際協力
新渡戸稲造	内村鑑三	クラーク	徳富蘇峰	三宅雪嶺	志賀重昂	陸羯南	井上哲次郎	北一輝	奪われし未来、孤独な群衆、永遠平和のために	福祉の実現と国際平和
片山潜	安部磯雄	木下尚江	堺利彦	幸徳秋水	河上肇	戸坂潤	北村透谷	島崎藤村		
与謝野晶子	夏目漱石	森鷗外	吉野作造	平塚らいてう	西光万吉	西田幾多郎	柳田国男	折口信夫		
南方熊楠	伊波普猷	宮沢賢治	坂口安吾	丸山真男	野間宏	吉本隆明	小林秀雄	ラスキン		
エマソン	ソロー	レオポルド	カーソン	ホールディング	コルボーン	ヨナス	バーソンズ	マクルーハン		
ゲーテンベルク	リップマン	ブーアスティン	リースマン	サイード	セン				(153)	(28)

d 本文・脚注で取り上げられた先哲の人名									e 本文で引用・言及されている原典資料名	f 「現代と倫理」のうち「現代の諸課題と倫理」で取り上げられているテーマ名
ルソー	レヴィン	アリエス	フロイト	エリクソン	ハヴィガースト	マズロー	シェーラー	シュブランガー	エミール、自由からの逃走、サラダ記念日、キリスト教の本質	科学技術と生命倫理
ユング	フロム	ヘルマン=ヘッセ	サリヴァン	マルチン=ブーバー	フォイエルバッハ	フランク	レイチェル=カーソン	ヤスパース	形而上学、純粋理性批判、イリアス、オデュッセイア	遺伝子の操作
カント	ホメロス	ヘシオドス	タレス	ヘラクレイトス	エンペドクレス	ベルクソン	ホイジンガ	デモクリトス	神統記、クリトン、ソクラテスの弁明、パイドロス、第七書簡	生殖医療の課題
プロタゴラス	ソクラテス	プラトン	アリストテレス	プロティノス	ゼノン	キケロ	セネカ	エビクテトス	ニコマコス倫理学、政治学、自省録、論語、孟子、荀子、四書五経	脳死と臓器移植
マルクス=アウレリウス	エビクロス	孔子	韓非子	孟子	荀子	朱子(朱熹)	王陽明	墨子	伝習録、墨子、老子、荘子、旧約聖書、新約聖書、告白	安楽死と尊厳死
老子	荘子	ラーマクリシュナ	モーセ	イザヤ	エレミヤ	イエス	ヨハネ	ペテロ	クルアーン、ヴェーダ、万葉集、古事記、日本書紀	科学技術の自然の関わり
パウロ	アウグスティヌス	トマス=アキナズ	ムハンマド	マーヴィーラ	ガウタマ=シッダルタ	ナーガールジュナ	アサンガ	ヴァスバンドゥ	三経義疏、願文、法華経、秘蔵宝鏡、往生要集	環境倫理の考え方
有元利夫	岡本太郎	星野富弘	エゴン=シーレ	丸木位里・俊	ピカソ	和辻哲郎	聖徳太子	聖武天皇	歎異抄、正法眼蔵、興禅護国論、開目抄	国際社会と環境問題
鑑真	行基	最澄	空海	空也	源信	法然	一遍	親鸞	推邪輪、三徳抄、西洋紀聞、折たく柴の記	日常の生活とリサイクル
柴西	道元	日蓮	明恵	叡尊	忍性	藤原惺高	林羅山	木下順庵	大和本草、養生訓、翁問答、童子問、弁道、都鄙問答、	現代の家族像
雨森芳州	新井白石	室鳩巢	貝原益軒	南村梅軒	山崎闇斎	佐藤直方	中江藤樹	伊藤仁斎	万民徳用、自然真営道、統道真伝、万葉代匠記、万葉考、国意考	家族の絆
山鹿素行	荻生徂徠	太宰春台	服部南郭	石田梅岩	手島焔庵	西川如見	富永仲基	山片蟠桃	古今和歌集、群書類従、玉勝間、解体新書、戊戌夢物語	男女共同参画社会
鈴木正三	二宮尊徳	安藤昌益	契沖	荷田春満	賀茂真淵	塙保己一	本居宣長	平田篤胤	慎機論、源氏物語、方丈記、徒然草、風姿花伝	少子高齢社会
フランシスコ=ザビエル	前野良沢	杉田玄白	三浦梅園	シーボルト	高野長英	渡辺華山	佐久間象山	吉田松陰	奥の細道、曾根崎心中、自由之理、	地域社会に生きる
横井小楠	西行	鴨長明	吉田兼好	世阿弥	千利休	雪舟	松尾芭蕉	近松門左衛門	学問のすゝめ、一年有半、民約訳解、武士道	情報社会
井原西鶴	福沢諭吉	西周	中村正直	森有礼	加藤弘之	津田真道	中江兆民	植木枝盛	日露戦争より余が受けし利益、国民之友、日本人、日本	情報の受け手としての自覚
新島襄	植村正久	小崎弘道	山室軍平	新渡戸稲造	内村鑑三	徳富蘇峰	三宅雪嶺	陸羯南	日本風景論、茶の本、教育勅語、日本改造法案大綱、平民新聞	情報の発信者としての自覚
西村茂樹	志賀重昂	岡倉天心	フェノロサ	北一輝	安部磯雄	片山潜	幸徳秋水	木下尚江	廿世紀の怪物帝国主義、貧乏物語、青鞥、水平社宣言	現代人のコミュニケーションの変化
河上肇	岸田俊子	景山(福田)英子	平塚らいてう	市川房江	奥むめお	西光万吉	田中正造	美濃部達吉	君死にたまふこと勿れ、現代日本の開化、妄想	仮想現実の問題
吉野作造	北村透谷	与謝野晶子	夏目漱石	森鷗外	武者小路実篤	志賀直哉	有島武郎	トルストイ	一個の人間、戦争はよくない、善の研究、倫理学	情報リテラシー
西田幾多郎	九鬼周造	鈴木大拙	柳田国男	折口信夫	柳宗悦	南方熊楠	石橋湛山	丸山眞男	「いき」の構造、大日本主義の幻想、超国家主義の論理と心理	異文化との出会い
湯川秀樹	大江健三郎	加藤周一	小林秀雄	森有正	吉本隆明	石牟礼道子	サン=テグジュペリ	ダンテ	日本文化の雑種性、無常という事、遙かなノートル・ダム	自文化中心主義の克服
ベトラルカ	ボッカチオ	ボッティチェリ	ラファエロ	アルベルティ	レオナルド=ダ=ヴィンチ	ミケランジェロ	ピコ=デラ=ミランドラ	マキャヴェリ	共同幻想論、苦海浄土、星の王子さま、神曲、カンツォニエーレ	文明の衝突から文明の共生へ
エラスムス	トマス=モア	ルター	カルヴァン	マックス=ウエーバー	イグナチウス=ロヨラ	モンテーニュ	パスカル	コベルニクス	デカメロン、人間の尊厳について、君主論、愚神礼賛	人類と宗教
ブトレマイオス	ガリレオ=ガリレイ	ケプラー	ニュートン	ベーコン	パークリー	ヒューム	デカルト	スピノザ	ユートピア、キリスト者の自由、95カ条の意見書(論題)	寛容の精神
ライブニッツ	コント	ラッセル	アインシュタイン	湯川秀樹	レイチェル=カーソン	リンカーン	グロティウス	フィルマー	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神、	世界の平和
ボシュエ	ホップズ	ロック	モンテスキュー	ヴォルテール	ディドロ	カント	ヘーゲル	フィヒテ	エッセー、パンセ、ノヴム=オルガヌム、哲学原理	排他的・差別的な人間の心理
シェリング	ゴーリキー	オーウェン	サン=シモン	フーリエ	マルクス	エンゲルス	レーニン	毛沢東	エチカ、沈黙の春、リヴァイアサン、統治論、法の精神	貧困の克服
ベルンシュタイン	ウエップ夫妻	バーナード=ショウ	アダム=スミス	ロールズ	アマ=ティア=セン	メーテルリンク	ペンサム	ミル	人間不平等起源論、啓蒙とは何か、純粋理性批判	人権意識の高まり
パース	ジェームズ	デュイ	ポパー	安部公房	リースマン	キルケゴール	ニーチェ	ヤスパース	実践理性批判、永久平和のために、歴史哲学、法の哲学	バリアフリーとノーマライゼーション
ハイデッガー	フッサール	サルトル	ポーヴォワール	メルロ=ポンティ	ガンディー	シュヴァイツァー	キング牧師	アンネ=フランク	どん底、資本論、道徳感情論、諸国民の富、正義論	人類の福祉
マザー=テレサ	宮沢賢治	ダーウィン	ウォーレス	ホルクハイマー	アドルノ	マルクーゼ	ハーバーマス	ソシュール	青い鳥、道徳および立法の諸原理序説、功利主義	
レヴィ=ストロース	フーコー	レヴィナス	ハンナ=アーレント	ワイトゲンシュタイン	メルロ=ポンティ	ムーア	リオータル	デリダ	プラグマティズム、哲学の改造、赤い蘭、日記、	
ボードリヤール	クーン	ドゥルーズ	ガタリ	ワトソン	クリック	ボールディング	ワンガリ=マタイ	リップマン	ツアラトウストラはこう語った、哲学入門、哲学、存在と時間	
サイド									ヒューマニズムについて、実存主義はヒューマニズムである、第二の性	
									シッダルタ、文化と倫理、あたえること、農民芸術概論要綱、全体性と無限	
									論理哲学論考、知覚の現象学、ユネスコ憲章	

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 第-310】(倫理)

d 本文・脚注で取り上げられた先哲の人名									e 本文中引用・言及されている原典資料名	f 「現代と倫理」のうち「現代の諸課題と倫理」で取り上げられているテーマ名
和辻哲郎	アリストテレス	レヴィン	エリクソン	ハヴィガースト	ピアジェ	コールバーグ	ルソー	フロイト	人間の学としての倫理学、エミール、イリアス	生殖補助医療と生まれてくる子どもの福祉
アドラー	ホリングワース	オズベル	サリヴァン	ショーベンハウアー	フランクル	ジェームズ	G.H.ミード	マルクス	オデュッセイア、神統記、ソクラテスの弁明	出生前診断と生命の選択
ユング	クレッチマー	シュブランガー	マズロー	オルポート	神谷美恵子	タレス	ホメロス	ヘシオドス	旧約聖書、新約聖書、クルアーン、ヴェーダ、ウパニシャッド	遺伝子操作とデザイナー・ベビー
ヘラクレイトス	ピタゴラス	パルメニデス	ゼノン(エレア学派)	エンペドクレス	デモクリトス	ゴルギアス	プロタゴラス	ソクラテス	スタニバータ、般若心経、論語、四書五経、老子、荘子	臓器移植と脳死
プラトン	アリストテレス	エピクロス	ゼノン(ストア学派)	キケロ	セネカ	エピクテトス	マルクス=アウレリウス	プロティノス	古事記、日本書紀、万葉集、三経義疏	再生医療と人間の尊厳
モーセ	イザヤ	エレミア	イエス	ヨハネ	ペテロ	パウロ	アウグスティヌス	トマス=アキナス	法華経、三教指帰、十住心論、往生要集	インフォームド・コンセント
ウィリアム=オッカム	ムハンマド	イブン=エル=シヌダ	ヴァルダマーナ	ゴータマ=シッダッタ	ナー=ガール=ジュナ	アサンガ	ヴァスバンドウ	孔子	選択本願念仏集、歎異抄、興禅護国論、喫茶養生記	末期医療のあり方
魯迅	毛沢東	墨子	孟子	董仲舒	荀子	韓非子	朱子(朱熹)	王陽明	西洋紀聞、養生訓、大和本草、聖教要録、中朝事実、語孟字義	地球の自己調節機能
老子	荘子	寇謙之	王重陽	夢窓疎石	聖徳太子	聖武天皇	鑑真	行基	童子問、万葉代匠記、紫文要領、出定後語、夢の代	持続可能な開発
最澄	空海	源信	空也	法然	善導	親鸞	一遍	栄西	徒然草、風姿花伝、解体新書、蘭学事始、慎機論	人間中心主義
道元	日蓮	明恵	叡尊	忍性	蓮如	桂庵玄樹	吉田兼俱	沢庵	戊戌夢物語、大日本史、新論、妻妾論、明六雑誌	生態系と生物多様性
良寛	鈴木正三	隠元	藤原惺窩	林羅山	林信篤	新井白石	木下順庵	雨森芳州	学問のすゝめ、学者職分論、文明論之概略、脱亜論	自然の生存権
貝原益軒	山崎闇斎	中江藤樹	熊沢蕃山	大塩平八郎	山鹿素行	伊藤仁斎	荻生徂徠	山本常朝	社会契約論、民約訳解、三酔人経綸問答、西国立志編	予防原則
井原西鶴	近松門左衛門	契沖	荷田春満	賀茂真淵	本居宣長	平田篤胤	石田梅岩	富永仲基	自由之理、日本評論、武士道と基督教、武士道	将来の世代に対する責任
山片蟠桃	三浦梅園	安藤昌益	二宮尊徳	西行	吉田兼好	世阿弥	千利休	松尾芭蕉	吾輩は猫である、坊っちゃん、私の個人主義、こゝろ、明暗	変容する家族関係
前野良沢	杉田玄白	渡辺崋山	高野長英	徳川光圀	会沢正志斎	佐久間象山	吉田松陰	勝海舟	舞姫、明星、一握の砂、悲しき玩具、みだれ髪、青鞵	少子化の進行
横井小楠	横本龍馬	久坂玄瑞	高杉晋作	伊藤博文	品川弥二郎	橋本佐内	緒方洪庵	フーフエラント	日本人、日本、国民之友、新日本之青年、日本改造法案大綱	男女共同参画社会
森有礼	西周	福沢諭吉	植木枝盛	中江兆民	中村正直	新島襄	植村正久	内村鑑三	平民新聞、貧乏物語、資本論、水平社宣言	高齢化の進行と高齢者福祉
新渡戸稲造	北村透谷	夏目漱石	森鷗外	石川啄木	岸田俊子	嵐山(福田)英子	与謝野晶子	国木田独歩	日本道德論、人間の学としての倫理学、大乘仏教概論	地域社会の役割
平塚らいてう	市川房枝	伊藤野枝	大杉栄	三宅雪嶺	志賀重昂	陸羯南	徳富蘇峰	北一輝	様々な意匠、無常といふ事、墜落論、日本政治思想史研究	消費社会としての現代
安部磯雄	片山潜	幸徳秋水	堺利彦	賀川豊彦	河上肇	高島素之	吉野作造	西光万吉	超国家主義の論理と心理、共同幻想論、神曲	情報社会において必要とされる能力
美濃部達吉	西村茂樹	井上哲次郎	西田幾多郎	柳田国男	折口信夫	柳宗悦	南方熊楠	宮沢賢治	カンツォニエーレ、デカメロン、人間の尊厳について	個人情報保護と情報セキュリティ
鈴木大拙	小林秀雄	坂口安吾	丸山眞男	吉本隆明	司馬遼太郎	ダンテ	ベトラルカ	ポッカチオ	君主論、愚神礼賛、ユートピア、95か条の論題、エッセー、パンセ	情報技術の発達とライフスタイルの変化
ピコ=デラ=ミランドラ	レオナルド=ダ=ヴィンチ	ミケランジェロ	マキャヴェリ	エラスムス	トマス=モア	フス	ウィクリフ	ルター	天文対話、プリンキピア、ノヴム=オルガヌム、方法序説	インターネットと新たなコミュニティの誕生
カルヴァン	モンテーニュ	バスカル	コペルニクス	ケプラー	ブトレマイオス	ガリレイ	ニュートン	クーン	エチカ、モノドロジー、種の起源、リヴァイアサン	電子ネットワーク上の人間関係のトラブル
フランシス=ベーコン	ロック	パークリー	ヒューム	デカルト	スピノザ	ライブニッツ	コント	ダーウィン	統治二論、法の精神、百科全書、正義論、純粹理性批判	情報社会において求められる倫理
スペンサー	ホッブズ	グロティウス	モンテスキュー	ヴォルテール	ディドロ	ロールズ	カント	ヘーゲル	実践理性批判、人倫の形而上学の基礎づけ、道徳感情論、自由論	宗教的な禁忌と日常生活
フィヒテ	シェリング	アダム=スミス	ベンサム	ミル	オーウェン	サン=シモン	フーリエ	エンゲルス	経済学・哲学草稿、ツアラトウストラはこう言った、	相手の宗教信仰への理解と敬意
レーニン	ウエッパ夫妻	バーナード=ショウ	ベルンシュタイン	キルケゴール	ニーチェ	ヤスバース	ハイデガー	サルトル	実存主義とは何か、第二の性、精神分析学入門、自由からの逃走	宗教間の抗争と和解への道
カミュ	メルロー=ポンティ	ボーヴォワール	パース	デュース	ペルクソン	フッサール	ホルクハイマー	アドルノ	悲しき熱帯、女性の隷従、マザーテレサのことば、苦海浄土	宗教の未来
フロム	ハーバーマス	ソシュール	レヴィ=ストロース	フーコー	デリダ	ドゥルーズ	ガタリ	ウィトゲンシュタイン	沈黙の春、日本国憲法	グローバル化の進展と生活空間
ラッセル	クワイン	セン	ノージック	マッキンタイア	レヴィナス	アーレント	サイード	シュヴァイツァー		エスノセントリズム
ガンディー	マザー=テレサ	ホールディング	ハーディン	レオポルド	田中正造	石牟礼道子	レイチエル=カーソン	ハンス=ヨナス		多文化共生社会をめざして
ボードリヤール	ムハンマド=ユヌス	キング牧師	マララ=ユスフザイ							自立支援のための援助

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 東書311】(倫理)

d 本文・脚注で取り上げられた先哲の人名										e 本文で引用・言及されている原典資料名	f 「現代と倫理」のうち「現代の諸課題と倫理」で取り上げられているテーマ名
ミード	ルソー	アリエス	レヴィン	エリクソン	シュブランガー	マズロー	フロイト	ユング		エミール、図説児童心理学事典、生きがいについて	<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学と生命倫理 ・生殖技術と家族 ・生命の終わりに ・生命の質と生命の尊厳 ・医者と患者の関係 ・脳死・臓器移植と人体の利用 ・生・老・病・死へのまなざし ・核家族化の進行 ・性別役割分担の見なおし ・急速に進行する少子高齢化 ・老いることの意味 ・地域社会というコミュニティ ・困難に直面する地域社会 ・東日本大震災と東北の地域社会 ・文化と歴史の主体としての地域 ・情報社会とは何か ・ステレオタイプの呪縛 ・活字時代からテレビ時代へ ・テレビによるイメージの大量生産 ・携帯端末につながる「わたし」 ・メディア・リテラシーの獲得 ・市民が情報社会をつくり変える ・グローバル化する社会 ・オリエンタリズム的思考を超えて ・異質なものととの共生 ・異なる普遍性を調停する ・環境への視点 ・環境問題の深刻化 ・環境問題と倫理 ・think globally, act locally ・モノにかこまれた生活 ・「豊かさ」の追求のはてに ・「豊かさ」の影からの問い ・「豊かさ」と表裏を成す戦争・テロ ・人類の福祉と平和に必要なものは何か ・高度技術社会のリスクと地球共同体
クレッチマー	オルポート	ソクラテス	ショーペンハウアー	神谷美恵子	フランクル	ベルクソン	ホイジンガ	カッシーラー		夜と霧、パンセ、イリアス、オデュッセイア	
リンネ	パスカル	ホメロス	ヘシオドス	タレス	ヘラクレイトス	ピタゴラス	パルメニデス	エンペドクレス		神統記、ソクラテスの弁明、国家	
デモクリトス	プロタゴラス	プラトン	アリストテレス	エピクロス	ゼノン	セネカ	エピクテトス	マルクス・アウレリウス		旧約聖書、十戒、新約聖書、クルアーン	
プロティノス	モーセ	イザヤ	エレミア	イエス	マリア	ヨハネ	ペテロ	パウロ		リグ・ヴェーダ、ダンマパダ、スッタニパータ	
アウグスティヌス	トマス・アクィナス	ムハンマド	アダム	ノア	イブ・ルシュド	ブッダ	ヴァルター・マナー	ナーガールジュナ		中論、論語、孟子、荀子、四書、五経	
アサンガ	ヴァスバンドウ	孔子	周公旦	孟子	董仲舒	荀子	韓非子	墨子		老子、荘子、今日の芸術、古事記、風土	
朱子	王陽明	老子	荘子	クリムト	クレー	マーラー	岡本太郎	和辻哲郎		万葉集、河盛好蔵宛書簡、憲法十七条、	
太宰治	聖徳太子	行基	最澄	空海	鑑真	空也	源信	法然		三経義疏、法華経、往生要集、歎異抄	
親鸞	唯円	道元	一遍	栄西	懐奘	日蓮	唐木順三	寺田寅彦		興禅護国論、正法眼蔵随聞記、立正安国論	
吉田兼好	鴨長明	世阿弥	心敬	千利休	雪舟	九鬼周造	藤原惺窩	林羅山		無常、徒然草、方丈記、三徳抄、西洋紀聞	
山崎闇斎	新井白石	雨森芳洲	貝原益軒	中江藤樹	伊藤仁斎	山鹿素行	山本常朝	荻生徂徠		大和本草、養生訓、語孟字義、葉隠	
契沖	荷田春満	賀茂真淵	本居宣長	平田篤胤	井原西鶴	近松門左衛門	西川如見	石田梅岩		弁道、六経、万葉代匠記、国意考、	
鈴木正三	富永仲基	山片蟠桃	三浦梅園	安藤昌益	二宮尊徳	吉田松陰	フランシスコ・ザビエル	前野良沢		源氏物語玉の小櫛、好色一代男	
杉田玄白	シーボルト	高野長英	渡辺華山	佐久間象山	横井小楠	勝海舟	福沢諭吉	森有礼		都鄙問答、玄語、二宮翁夜話、解体新書	
西周	中村正直	加藤弘之	中江兆民	植木枝盛	徳富蘇峰	三宅雪嶺	志賀重昂	陸羯南		蘭学事始、自由論、文明論の概略	
西村茂樹	岡倉天心	新島襄	内村鑑三	植村正久	新渡戸稲造	西郷隆盛	北村透谷	国木田独歩		民約訳解、三酔人経論問答、国民之友	
島崎藤村	与謝野晶子	田山花袋	正宗白鳥	夏目漱石	森鷗外	武者小路実篤	志賀直哉	石川啄木		日本人、日本、日本道徳論、教育勅語	
幸徳秋水	片山潜	安部磯雄	木下尚江	河上肇	吉野作造	西光万吉	福田英子	平塚らいてう		茶の本、東洋の理想、代表的日本人	
長沼智恵子	美濃部達吉	西田幾多郎	鈴木大拙	柳田国男	宮沢賢治	南方熊楠	折口信夫	柳宗悦		武士道、文学界、若菜集、漫罵、恋い衣	
北一輝	小林秀雄	丸山真男	加藤周一	吉本隆明	ブルーゲル	ピコ・デラ・ミランダ	レオナルド・ダ・ヴィンチ	エラスムス		みだれ髪、私の個人主義、かのように	
トマス・モア	マキャヴェリ	ダンテ	ペトラルカ	ボッカチオ	ラファエロ	ボッティチエリ	ミケランジェロ	ルター		ナイルの水の一滴、社会主義神髄、青鞥	
カルヴァン	ウェーバー	ガリレオ・ガリレイ	コペルニクス	ケプラー	ブトレマイオス	ベーコン	デカルト	モンテーニュ		善の研究、日本的霊性、倫理学、	
パスカル	ロック	スピノザ	ライプニッツ	パークリー	ヒューム	ホッブズ	グロティウス	モンテスキュー		郷土生活の研究法、白樺、民芸	
ヴォルテール	デイドロ	カント	フィヒテ	シェリング	ヘーゲル	アダム・スミス	ベンサム	ミル		日本改造法案大綱、無常といふ事	
サン・シモン	フーリエ	オーウェン	エンゲルス	マルクス	ウエッブ夫妻	バーナード・ショー	ベルンシュタイン	レーニン		現代政治の思想と行動、人間の尊厳について	
毛沢東	コント	ダーウィン	スペンサー	パース	ジェームズ	デューイ	キルケゴール	ニーチェ		愚神礼讃、ユートピア、君主論、神曲	
ヤスパース	ハイデッガー	フッサール	サルトル	ボーヴォワール	ホルクハイマー	アドルノ	フロム	ベンヤミン		95か条の意見書、プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	
ソシュール	レヴィ-ストロース	フーコー	ヴォイトゲンシュタイン	レヴィナス	ドゥルーズ	ガタリ	デリダ	ニュートン		天文対話、ノヴム・オルガヌム、リヴァイアサン	
トーマス・クーン	ゲーテ	シュヴァイツァー	ガンディー	大野晋	マザー・テレサ	アーレント	ハーバーマス	ロールズ		法の精神、百科全書、実践理性批判	
セン	リップマン	マクルーハン	ブーアスティン	アンダーソン	サイド	ハーディン	レイチェル・カーソン	ハンス・ヨナス		種の起源、日記、ツアラトウストラはこう語った	
リースマン	マララ・ユスフザイ									第二の性、啓蒙の弁証法、自由からの逃走 旅人の夜の歌、日本語の年輪、農民芸術概論綱要 セロ弾きのゴーシュ、正義論、TIME、沈黙の春	

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 実教312】(倫理)

d 本文・脚注で取り上げられた先哲の人名										e 本文中で引用・言及されている原典資料名	f 「現代と倫理」のうち「現代の諸課題と倫理」で取り上げられているテーマ名
レンブラント	リンネ	ベルクソン	ホイジンガ	カッシーラー	ゴーギャン	エリック=ホフマー	エリクソン	ルソー		エミール、幼児期と社会、生きがいについて	<ul style="list-style-type: none"> ・生命倫理 ・生命の始まりへの介入 ・生命の終わりへの介入 ・脳死と臓器移植 ・バイオテクノロジーの進歩 ・再生医療 ・地球環境問題 ・地球環境問題への取り組み ・環境破壊と自然観 ・動物の権利 ・生態系としての自然 ・未来世代への責任 ・宇宙船地球号 ・think globally, act locally ・家族の変容 ・現代家族の課題 ・少子化と高齢化 ・地域社会の変容と新たな役割 ・公共圏の回復と共生社会の実現 ・情報化の進展 ・情報社会の問題点 ・情報社会における取り組み ・情報社会の倫理 ・グローバル化と異文化理解 ・多文化主義と多文化共生 ・現代の世界と宗教 ・宗教をめぐる摩擦と共生の試み ・平和の思想と実践 ・人類の福祉を求めて
レヴィン	アリストテレス	ショーペンハウアー	松本竣介	マズロー	フロイト	クレッチマー	ユング	シュブランガー		夜と霧、イリアス、オデュッセイア、神統記	
ハヴィガースト	小此木啓吾	山田昌弘	神谷美恵子	フランクル	ヤスパース	ブッダ	孔子	ホメロス		ソクラテスの弁明、国家、パイドロス、ニコマコス倫理学	
ヘシオドス	タレス	ピュタゴラス	ヘラクレイトス	エンペドクレス	デモクリトス	クセノファネス	パルメニデス	ソクラテス		旧約聖書、新約聖書、クルアーン、リゲ=ヴェーダ	
プロタゴラス	ゴルギアス	ダヴィッド	プラトン	ラファエロ	エピクロス	ゼノン	セネカ	エピクテトス		スッタニパータ、三蔵、大蔵経、ジャータカ	
マルクス=アウレリウス	ミケランジェロ	モーセ	イエス	イザヤ	エレミア	ペトロ	アダム	パウロ		法華経、般若経、中論、般若心経、	
アウグスティヌス	プロティノス	トマス=アキナス	ムハンマド	ヴァルダマナ	竜樹	無著	世親	玄奘三蔵		華嚴経、無量寿経、論語、孟子、	
北原玲	フランシスコ	マリア	達磨禅師	アショーカ王	サラディン	老子	孟子	董仲舒		五経、四書、老子、風土、万葉集、古今和歌集	
荀子	荘子	韓非子	李斯	墨子	楊子	恵施	公孫竜	蘇秦		古事記、胎蔵界曼荼羅、三経義疏、十七条憲法	
張儀	孫子	許行	鄒衍	周公旦	文王	朱子	王陽明	セザンヌ		往生要集、餓鬼草紙、方丈記、歎異抄	
ゴッホ	和辻哲郎	山部赤人	大伴家持	山上憶良	折口信夫	丸山眞男	聖徳太子	鑑真		山家集、徒然草、春鑑抄、葉隠、教育勅語	
行基	最澄	空海	空也	源信	鴨長明	法然	親鸞	道元		万葉代匠記、日本書紀、古今集、源氏物語	
日蓮	明恵	唯円	栄西	一遍	如浄	西行	千利休	雪舟		古事記伝、霊の真柱、解体新書、慎機論	
世阿弥	藤原惺窩	林羅山	山崎闇斎	中江藤樹	貝原益軒	新井白石	熊沢蕃山	山鹿素行		戊戌夢物語、自由論、自由之理、明六雑誌	
山本常朝	伊藤仁斎	荻生徂徠	契沖	荷田春満	賀茂真淵	本居宣長	平田篤胤	鈴木正三		百一新論、学問のすゝめ、民権自由論	
西川如見	井原西鶴	近松門左衛門	石田梅岩	手島堵庵	安藤昌益	二宮尊徳	富永仲基	山片蟠桃		民約訳解、三酔人経論問答、武士道	
三浦梅園	ベーコン	デカルト	ハーバート=ノーマン	前野良沢	杉田玄白	平賀源内	緒方洪庵	高野長英		失望と希望-日本国の先途、日本人、日本	
シーボルト	渡辺華山	佐久間象山	吉田松陰	大塩平八郎	会沢正志斎	横井小楠	ジョン=ロック	森有礼		平民新聞、社会主義神髓、一握の砂	
福沢諭吉	西周	加藤弘之	津田真道	JS. ミル	中村正直	植木枝盛	中江兆民	新島襄		文学界、若菜集、みだれ髪、舞姫	
植村正久	新渡戸稲造	内村鑑三	クラーク	徳富蘇峰	西村茂樹	三宅雪嶺	志賀重昂	陸羯南		貧乏物語、労働新聞、白樺、青鞞	
岡倉天心	幸徳秋水	堺利彦	片山潜	木下尚江	安部磯雄	マルクス	エンゲルス	トルストイ		日本改造法案大綱、本居宣長、モモ	
石川啄木	田中正造	大杉栄	北村透谷	島崎藤村	与謝野晶子	森鷗外	夏目漱石	美濃部達吉		人間の尊厳について、君主論、95か条の意見書	
吉野作造	河上肇	石橋湛山	武者小路実篤	岸田俊子	福田英子	平塚らいてう	西田幾多郎	鈴木大拙		プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	
北一輝	柳田国男	折口信夫	南方熊楠	柳宗悦	宮沢賢治	小林秀雄	エンデ	ドラクロワ		エッセー、パンセ、フランス人権宣言	
アンディ=ウォーホル	ポツティ=チエリ	ベトラルカ	ボッカチオ	ダンテ	レオナルド=ダ=ヴィンチ	ピコ=デラ=ミランダ	マキャベリ	ルター		法の精神、哲学書簡、百科全書	
カルヴァン	エラスムス	トマス=モア	ウィクリフ	フス	マックス=ウェーバー	イグナチウス=ザ=ロヨラ	フランシスコ=ザビエル	モンテーニュ		ツァラトゥストラはこう語った	
パスカル	プトレマイオス	コペルニクス	クーン	ガリレイ	ブルーノ	ケプラー	ニュートン	ロベール=フルーリ		自由からの逃走、沈黙の春	
パークリー	ヒューム	スピノザ	ライプニッツ	カント	ホップズ	グロティウス	モンテスキュー	ヴォルテール			
ディドロ	ダランベール	フィヒテ	シェリング	ヘーゲル	ナポレオン	アダム=スミス	ベンサム	コント			
スペンサー	ダーウィン	ベルクソン	パース	ジェームズ	デュエイ	オーウエン	サン=シモン	フーリエ			
レーニン	毛沢東	ウエッブ夫妻	バーナード=ショウ	ベルンシュタイン	ヤスパース	ハイデガー	サルトル	キルケゴール			
ニーチェ	フツサール	メルロ=ポンティ	ボーヴォワール	ピカソ	ソシュール	ウィトゲンシュタイン	ホルクハイマー	アドルノ			
フロム	ハーバーマス	レヴィ=ストロース	フーコー	レヴィナス	デリダ	ドゥルーズ	ガタリ	シュヴァイツァー			
ガンディー	キング牧師	ロールズ	セン	アーレント	マッキンタイア	サンデル	ノージック	マザー=テレサ			
レイチエル=カーソン	ピーター=シンガー	エマーソン	ソロー	アルド=レオポルド	ハンス=ヨナス	ケネス=ボルディング	マードック	テンニース			
マクルハーン	ボードリヤール	サイード	サー=エドウィン=ア=ノルド								

d 本文・脚注で取り上げられた先哲の人名										e 本文で引用・言及されている原典資料名	f 「現代と倫理」のうち「現代の諸課題と倫理」で取り上げられているテーマ名
ルソー	レヴィン	エリクソン	アリエス	小此木啓吾	フロイト	マズロー	ユング	ジェームズ	エミール、イリアス、ソクラテスの弁明、	・バイオの時代と生命倫理	
クーリー	G.H.ミード	ロジャーズ	ペイトソン	村上春樹	ギデンズ	ソクラテス	プラトン	アリストテレス	パイドン、国家、ニコマコス倫理学、	・患者の権利 インフォームド・コンセント	
ホメロス	ヘシオドス	タレス	アナクシマン드로ス	アナクシメネス	ピュタゴラス	ヘラクレイトス	パルメニデス	ゼノン	旧約聖書、クルアーン、新約聖書、	・母は誰か 生殖革命がゆるがず親子観	
エンペドクレス	デモクリトス	ゴルギアス	プロタゴラス	アナクサゴラス	エピクロス	ゼノン(ストア派)	イザヤ	エレミア	ヴェーダ、ウパニシャッド、	・脳死と臓器移植の問題点	
アブラハム	モーセ	イエス	パウロ	アウグスティヌス	トマス・アクィナス	オッカム	キルケゴール	ニーチェ	スタニバータ、ダンマバダ、	・人体の資源化・商品化	
キング	シュヴァイツァー	マザー・テレサ	ムハンマド	ヴァルダマナー	ゴッタルディンゲル	ナーガールジュナ	アサンガ	ヴァスバンドウ	サンユッタ・ニカーヤ、大蔵経、般若経、	・再生医療の可能性と課題	
鳩摩羅什	玄奘	ツォンカバ	孔子	墨子	孟子	孫子	蘇秦	張儀	法華経、涅槃経、論語、墨子、孟子、	・ヒトゲノム研究	
荀子	李斯	韓非	朱子	董仲舒	陸九淵	王陽明	老子	莊子	荀子 韓非子、五経、老子、風土	・死を問い直す	
和辻哲郎	吉田兼俱	山崎闇斎	平田篤胤	聖徳太子	聖武天皇	行基	鑑真	最澄	日本書紀、古事記、万葉集、風土記、	・私たちはどこへ行くのか 科学技術と人間の尊厳	
円仁	空海	源信	空也	法然	親鸞	一遍	叡尊	忍性	三経義疏、金光明経、	・かけがえない地球生態系	
栄西	道元	明全	如浄	日蓮	覚鑊	明恵	貞慶	凝然	華嚴経、山家学生式、顕戒論、三教指帰、	・環境危機に対する取り組み	
千利休	世阿弥	松尾芭蕉	西行	鴨長明	鈴木大拙	林羅山	吉川惟足	山崎闇斎	十住心論、往生要集、選択本願念仏集、	・環境倫理学の問題提起	
新井白石	富永仲基	山片蟠桃	雨森芳洲	貝原益軒	三浦梅園	中江藤樹	熊沢蕃山	山鹿素行	教行信証、歎異抄、興禅護国論、喫茶養生記、	・地球生態系の限界をわきまえる 地球有限主義	
山本常朝	伊藤仁斎	荻生徂徠	太宰春台	海保青陵	契沖	荷田春満	賀茂真淵	本居宣長	正法眼蔵、立正安国論、開目抄、権邪輪、	・未来世代は抗議できない 世代間倫理	
井原西鶴	鈴木正三	石田梅岩	二宮尊徳	安藤昌益	岡倉天心	近松門左衛門	前野良沢	杉田玄白	八宗綱要、今昔物語集、方丈記、山家集、	・木は法廷に立てるか 自然の権利	
志筑忠雄	渡辺華山	高野長英	佐久間象山	吉田松陰	横井小楠	西村茂樹	中村正直	西周	九相詩絵巻、平家物語、春鑑抄、六経、	・都市の環境倫理	
加藤弘之	福沢諭吉	中江兆民	植木枝盛	北村透谷	森有礼	与謝野晶子	平塚らいてう	夏目漱石	語孟字義、源氏物語玉の小櫛、解体新書、	・原発と共存できるか	
森鷗外	内村鑑三	新渡戸稲造	三宅雪嶺	陸羯南	徳富蘇峰	幸徳秋水	片山潜	安部磯雄	屠象新書、学問のすゝめ、	・エネルギーのあり方を見直す	
河上肇	吉野作造	美濃部達吉	西田幾多郎	柳田国男	折口信夫	南方熊楠	柳宗悦	北一輝	民撰議院設立建白書、三酔人経綸問答、	・環境の保全と再生に向けて	
石橋湛山	矢内原忠雄	丸山真男	吉本隆明	ダンテ	ペトラルカ	ボッカチオ	ピコ＝テラ＝ミランダラ	レオナルド＝ダ＝ヴィンチ	東洋大日本国憲法按(案)、内節生命論、青鞥、	・進む社会の情報化	
マキャヴェリ	エラスムス	トマス＝モア	ルター	ウィクリフ	フス	カルヴァン	イグナチウス＝デロヨラ	M.ウエーバー	舞姫、武士道、大日本帝国憲法、	・マスメディアをめぐる問題	
モンテーニュ	バスカル	デカルト	フトレマイオス	コベルニクス	ケプラー	ガリレイ	アリストタルコス	ヨハネ＝パウロ2世	教育二関スル勅語、日本人、万朝報、	・インターネットをめぐる問題	
バターフィールド	クーン	ニュートン	ベーコン	ホッブズ	ロック	パークリー	ヒューム	スピノザ	廿世紀之怪物帝国主義、平民新聞、	・資本主義の発展と問題	
ライブニッツ	メルロ＝ポンティ	レヴィ＝ストロース	グロティウス	ヴォルテール	デイドロ	ダランベール	アダム＝スミス	ベンサム	社会主義神髄、貧乏物語、遠野物語、	・企業の社会的責任と市民の動き	
ミル	カント	ヘーゲル	マルクス	オーウェン	サン＝モン	フーリエ	エンゲルス	ヤスパース	共同幻想論、神曲、人間の尊厳について、	・望ましい経済のあり方の模索	
ハイデガー	サルトル	コント	パース	デュエイ	ダーウィン	ワイトゲンシュタイン	ソシユール	フッサール	君主論、痴愚神礼賛、ユートピア、	・家族とは	
ハーバーマス	レヴィナス	アドラー	ラカン	フーコー	ドゥルーズ	ガタリ	ホルクハイマー	アドルノ	95か条の論題、パンセ、近代科学の誕生、	・家族のかたちの変化	
ポパー	アーレント	ウルストンクラフト	ボーヴォワール	フリーダーン	バトラー	ロールズ	セン	バーリン	プリンキピア、新機関、大革新、方法序説、	・現代の家族が抱える問題	
ワトソン	バプロフ	ノージック	マッキンタイア	サンデル	ガンディー	ハンス＝ヨナス	カーソン	ストーン	情念論、リヴァイアサン、権利章典、	・家族を地域社会が支える	
トフラー	シュンペーター	フリードマン	ハイエク	トマ・ピケティ	上野千鶴子	サイード			社会契約論、百科全書、道徳感情論、	・地域社会が抱える問題	
									国富論、功利主義、実践理性批判、	・地域社会における共生をめざして	
									道徳形而上学原論、永久平和のために、	・文明の衝突	
									論理哲学論考、哲学探究、啓蒙の弁証法、	・社会的アイデンティティ	
									第二の性、アナーキー・国家・ユートピア、	・自民族中心主義と文化相対主義	
									沈黙の春、ユネスコ憲章	・異文化を理解する鍵	
										・戦争を生み出す心	
										・平和のとりでを築くために	
										・世界全体の幸福と個人の幸福	
										・人類の福祉の向上のためにできること	

「別紙2-1」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 発行者 数研314】(倫理)

d 本文・脚注で取り上げられた先哲の人名										e 本文中で引用・言及されている原典資料名	f 「現代と倫理」のうち「現代の諸課題と倫理」で取り上げられているテーマ名
ペスタロッチ	エドガー＝モラン	リンネ	ベルクソン	ホイジンガ	マーガレット＝ミード	アリエス	ホリングワース	ルソー		二十世紀からの脱出、エミール、夜と霧、	・生命倫理の登場
レヴィン	フランク	ハヴィガースト	オルポート	エリクソン	小此木啓吾	カイリー	シュブランガー	サン＝テグジュペリ		星の王子さま、生きがいについて、イリアス、	・生命科学の発達と倫理
ショーペンハウアー	フロイト	フロム	マズロー	クレッチマー	ユング	ゴールドバーグ	神谷美恵子	シュタイナー		オデュッセイア、労働と日々、ソクラテスの弁明、	・生命の誕生と倫理
ホメロス	ヘシオドス	タレス	ピタゴラス	ヘラクレイトス	エンペドクレス	デモクリトス	バルメニデス	プロタゴラス		ニコマコス倫理学、旧約聖書、新約聖書、	・医療技術の高度化と倫理
ソクラテス	プラトン	アリストテレス	エピクロス	ゼノン	セネカ	エピクテトス	マルクス＝アウレリウス	モーセ		クルアーン、ヴェーダ、ウパニシャッド、	・生命の質と尊厳死
イザヤ	エレミヤ	イエス	ヨハネ	ペテロ	パウロ	アウグスティヌス	プロティノス	トマス＝アキナス		スタニバータ、論語、孟子、	・環境問題の発生
ロジャー＝ペーコン	ウィリアム＝オッカム	ムハンマド	ガウタマ＝シッダールタ	ヴァルダマーナ	竜樹	無著	世親	孔子		四書五経、朱子文集、伝習録、老子、	・現代の環境問題
韓非子	墨子	孫子	孟子	荀子	董仲舒	朱子	王陽明	老子		荘子、神曲、カンツォニエーレ、デカメロン、	・環境問題の種類と原因
荘子	バプロ＝カザルス	ダンテ	ペトラルカ	ボッカチオ	ビコ＝パラ＝ミランダラ	マキアヴェリ	エラスムス	トマス＝モア		人間の尊厳について、君主論、愚神礼賛、	・環境問題と倫理
レオナルド＝ダヴィンチ	ミケランジェロ	ラファエロ	ルター	カルヴァン	ウエーバー	イグナチウス＝ロヨラ	モンテーニュ	バスカル		ユートピア、95か条の論題、エッセー、パンセ、	・環境問題への取り組み
コペルニクス	ケプラー	ガリレイ	ニュートン	プトレマイオス	フランシス＝ベーコン	デカルト	ロック	パークリー		情念論、方法序説、人間知性論、人間本性論、	・家族の役割
ヒューム	スピノザ	ライブニッツ	ジェームズ1世	ボシュエ	グロチウス	ホップズ	モンテスキュー	ヴォルテール		エチカ、単子論、戦争と平和の法、リヴァリアサン、	・家族形態の変化
ディドロ	カント	フィヒテ	シェリング	ヘーゲル	アダム＝スミス	ベンサム	J.S.ミル	コント		統治二論、百科全書、人間不平等起源論、	・現代の家族の問題
ダーウィン	スペンサー	パース	ジェームズ	デュエイ	サン＝シモン	フーリエ	オーウェン	マルクス		社会契約論、純粋理性批判、実践理性批判、	・男女共同参画社会
エンゲルス	ウェット夫妻	バーナード＝ショウ	ベルンシュタイン	レーニン	毛沢東	孫文	キルケゴール	ニーチェ		道徳形而上学原論、永遠平和のために、精神現象学、	・地域社会の役割
ベルクソン	ヤスパース	ハイデッガー	フッサール	サルトル	ボーヴォワール	カミュ	メルロ＝ポンティ	ソシュール		諸国民の富、道徳および立法の諸原理序説、	・地域社会の変化
レヴィ＝ストロース	フーコー	デリダ	ドゥルーズ	リオータル	ホルクハイマー	アドルノ	ウィトゲンシュタイン	ポパー		種の起源、共産党宣言、資本論、経済学批判、	・地域社会の課題
クーーン	レヴィナス	アーレント	ハーバーマス	ロールズ	ノージック	セン	サンデル	リースマン		死に至る病、ツアラトウストラはこう言った、	・地域社会と公共性
トルストイ	ロマン＝ロラン	ガンディー	シュヴァイツァー	キング	サイード	マザー＝テレサ	ハンス＝ヨナス	折口信夫		善悪の彼岸、実存主義とは何か、自由からの逃走、	・情報化の進展
和辻哲郎	廬戸皇子	聖武天皇	鑑真	行基	最澄	空海	役小角	西行		孤独な群衆、私には夢がある、古事記、	・情報社会の問題点
空也	源信	法然	親鸞	唯円	一遍	栄西	道元	日蓮		日本書紀、三経義疏、往生要集、教異抄、	・情報社会の課題
蓮如	叡尊	忍性	明恵	雪舟	千利休	松尾芭蕉	世阿弥	藤原惺高		興禅護国論、正法眼蔵、立正安国論、摧邪論、	・多文化状況と異文化理解
養父	林羅山	貝原益軒	新井白石	雨森芳洲	中江藤樹	山鹿素行	山本常朝	伊藤仁斎		礼記、三徳抄、葉隠、語孟字義、経済録、	・自民族中心主義の克服
荻生徂徠	太宰春台	山崎闇斎	契沖	荷田春満	賀茂真淵	本居宣長	平田篤胤	井原西鶴		万葉集、万葉代匠記、国意考、	・同化主義の克服
近松門左衛門	西川如見	富永仲基	山片蟠桃	石田梅岩	鈴木正三	安藤昌益	二宮尊徳	青木昆陽		古今和歌集、源氏物語、源氏物語玉の小櫛、玉扇間、	・文化相対主義
前野良沢	杉田玄白	高野長英	渡辺華山	三浦梅園	藤田東湖	会沢正志斎	佐久間象山	横井小楠		都鄙問答、自然真當道、解体新書、戊戌夢物語、	・多文化主義
吉田松陰	中村正直	森有礼	西周	加藤弘之	福沢諭吉	植木枝盛	中江兆民	徳富蘇峰		機軸論、明六雑誌、西園立志編、自助論、自由之理、	・国際平和を旨指して
三宅雪嶺	志賀重昂	陸羯南	岡倉天心	西村茂樹	内村鑑三	新島襄	新渡戸稲造	井上哲次郎		自由論、学問のすゝめ、民約訳解、三酔人経論問答、	・人類の福祉
植村正久	北村透谷	島崎藤村	与謝野晶子	田山花袋	国木独步	夏目漱石	森鷗外	幸徳秋水		国民の友、日本人、日本道徳論	・差別の構造と偏見の心理
片山潜	木下尚江	安部磯雄	西田幾多郎	和辻哲郎	吉野作造	鈴木大拙	阿部次郎	武者小路実篤		大日本国帝国憲法、教育勅語、	
有島武郎	永井荷風	谷崎潤一郎	河上肇	平塚らいてう	倉田百三	西光万吉	宮沢賢治	小林秀雄		失望と希望—日本国の先途、武士道、若菜集、	
柳田国男	南方熊楠	柳宗悦	北一輝	美濃部達吉	坂口安吾	丸山真男	吉本隆明	竹内好		みだれ髪、蒲団、恋衣、行人、こゝろ、	
廣松渉	山中伸弥	ヒボクラテス	キヤロル＝ギリガン	ラッセル	アインシュタイン	田中正造	石牟礼道子	ポール＝ディング		私の個人主義、舞姫、社会主義神髓、平民新聞、	
カーゾン	ピーター＝シンガー	ワンガリ＝マータイ	オー＝ウェル	W. キムリツカ	ヴァイツェッカー					善の研究、倫理学、貧乏物語、青鞥、水平社宣言、	
										先祖の話、日本改造法案大綱、日本国憲法、	
										墮落論、ある自由主義者への手紙、誓い、苦海浄土、	
										沈黙の春	
										ナショナリズムについて、英国におけるユダヤ人差別、	
										ラッセル＝アインシュタイン宣言、ユネスコ憲章、荒れ野の40年	

「別紙2-2」 【(1) 内容 イ 一次エネルギー及び再生可能エネルギーの扱い】 (倫理)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
清水	308	高等学校 新倫理 新訂版	有 無	(P203課題) (P208本文)	第5編現代の諸課題と倫理 第2章環境と倫理 第5編現代の諸課題と倫理 第4章地域社会の変容と共生	・話し合ってみよう ②北九州市や水俣市、横浜市など環境モデル都市をはじめ、各地方公共団体では、低炭素社会の実現のためにさまざまなとりくみを実施されている。資源の再利用や新エネルギーの利用など、環境保全のとりくみの事例について調べてみよう。 ・クリーンエネルギーの普及、資源のリサイクル、景観設計など、地域社会が環境問題へのとりくみに果たすべき役割も大きい。
山川	309	現代の倫理 改訂版	有 無			
第一	310	高等学校 改訂版 倫理	有 無	(P201本文) (P201写真)	第5章現代の諸課題と倫理 2環境の問題と倫理課題 3 予防原則と世代間倫理	・化石燃料にかわるエネルギー源として、原子力発電があるが、原子力発電には課題も多い。1986年のチェルノブイリ原子力発電所(ウクライナ)や2011年の福島第一原子力発電所の事故、放射性物質漏れの問題など、安全性に対する懸念や根強い反対がある。 ・『福島第一原子力発電所の事故』2011年、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故が起こり、大量の放射性物質が広い範囲に放出するという深刻な事態が発生した。
東京	311	倫理	有 無	(P211 本文)	第5章 現代の課題を考える 第6節 環境	原子力エネルギーについては、以前から放射性廃棄物の問題などが指摘されていたが、二酸化炭素の排出量が少なく、「環境にやさしい」ともいわれていた。しかし、いったん事故が起ると、地域住民の生活は無論、土壌や海洋など地球の自然環境に長期にわたり甚大な被害を与えることを、改めてわたしたちに認識させた。
実教	312	高校倫理 新訂版	有 無			
清水	313	高等学校 現代倫理 新訂版	有 無	(P182~183 本文) (P183 写真)	第3編現代の諸課題と倫理 課題学習2 地球環境と倫理 地球の環境の危機と人間の生活	20世紀は石油の世紀ともいわれ、石油を燃料や原料とした工業技術は、かつてない物質的豊かさを可能にした。しかし、石油など化石燃料の大量消費は、地球温暖化や酸性雨などを招くことにもなった。原子力エネルギーも根本的な危険性を抱えている。 21世紀の世界は、人類の存続を脅かしかねない、こうしたエネルギー大量消費文明からの転換を迫られている。 「風力発電」(沖縄県宮古島)再生可能エネルギーである風力発電は、太陽電池などとともに、化石燃料に替わる新しい電力源として期待されている。
数研	314	改訂版 倫理	有 無			

「別紙 2-3」 【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 オリンピック、パラリンピックの扱い】 (倫理)

発行者	教科書番号	教科書名	扱いの有無	扱い方(本文・コラム・写真)	取り上げている項目	記述の概要
清水	308	高等学校 新倫理 新訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
山川	309	現代の倫理 改訂版	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	(P114写真)	第Ⅱ部人間としてのあり方・生き方 第2章世界の中の日本人 第5節日本の近代化と西洋思想 8. 日本の歩んだ道～戦争と平和	・平和の行進—オリンピック大会の閉会式 1964(昭和39)年、東京で第18回オリンピックがひらかれた。東京は1940(昭和15)年に一度開催が決まっていたが、日中戦争と第二次世界大戦のために中止となった。「世界は一つ」のテーマのもとに、東京オリンピックは日本の国民に平和の時代を実感させ、大きな感動をあたえた。
第一	310	高等学校 改訂版 倫理	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
東書	311	倫理	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
実教	312	高校倫理 新訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
清水	313	高等学校 現代倫理 新訂版	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
数研	314	改訂版 倫理	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			

「別紙3」【(2) 構成上の工夫】(倫理)

発行者	教科書番号	教科書名	構成上の工夫
清水	308	高等学校 新倫理 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・コラムで原典資料や思想家の言葉を取り上げている。 ・視覚的資料を使い、人物とその思想を関連付けて説明している。 ・「東洋と西洋の思考」という特集ページで、東西の共通の思想テーマの比較が行われている。 ・各章の冒頭において、写真資料とともに、その章で学習する内容の概要が示されている。
山川	309	現代の倫理 改訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・コラムで補足的な学習内容について触れている。 ・重要な思想家の項目のはじめに、「ことば」として原典からの短い引用がされている。 ・学習項目のはじめに短い問い掛けをおいて、関心を高められるよう工夫している。 ・「現代社会と倫理」では、節ごとに「プロローグ」を設けて学習項目を焦点化している。
第一	310	高等学校 改訂版 倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・コラム等で補足的な内容を扱っている。 ・視覚的資料として、思想家の言葉を大きな枠組みで明示している。 ・ページ最下部に「名言」「Topic」において、本文の説明を補っている。 ・「特集」ページで、ギリシャの哲学者たち、キリスト教、イスラーム、西洋近現代思想の理解を助ける工夫がなされている。
東書	311	倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・原点資料が豊富に掲載されており、これらを活用し先哲の思想を比較検討することで、生徒の理解を促す工夫がなされている。 ・重要先哲の思想だけにとどまらず、周囲の人物との関係性や時代背景などを解説することで、深い理解が可能となっている。 ・コラムや「思索の窓」を通して、生徒の興味・関心を高める工夫をしている。
実教	312	高校倫理 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の導入部に、大きな図版、身近な話題を提起することで、扱う先哲の思想に対して主体的な関わりが持てるよう工夫されている。 ・豊富なコラムをヒントにして思想を多面的・多角的視点から考察、分析することが可能となっている。 ・内容が非常にコンパクトで、無駄なくまとまっており、一度通して読むことで、容易に理解することができる構成となっている。 ・テーマ学習「人間としてのあり方・生き方を考える」では、生きていく上で大切な根源的テーマを取り上げて、生徒の興味関心を高めている。
清水	313	高等学校 現代倫理 新訂版	<ul style="list-style-type: none"> ・コラム等で補足的な内容や原典資料を取り上げ、「close up」のページで、それぞれの節の内容の一部を掘り下げて紹介している。 ・絵や写真などの視覚的資料が豊富であり、サイズも大きめで見やすくなっている。 ・各章の各節ごとに、その節の内容を概観した説明文が載せられている。 ・第3編の課題学習では、基礎的内容と課題例が示されており、生徒が主体的に取り組みやすい構成になっている。
数研	314	改訂版 倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・「COLUMN」で複数の章や節に関連するトピックを置き、「原典資料」で聖典や著作の一部を紹介するなど、生徒の関心を高めている。 ・視覚的資料として主要な思想家について「人物」の欄を置き、肖像画あるいは顔写真とともに略歴や著書を紹介している。 ・索引にある語句は全て本文・脚注でゴシック体で示されている。脚注は語句とともに本文の内容に対しても付けられている。 ・「比較」「補足」「参考」という補足的な説明を置き、学習内容の理解を深められるように工夫している。